

伴・大塚の農業を
楽しく持続させる応援団

アグリアシストとも

- ・ 課題
- ・ 今後の取組み
- ・ 参考資料



持続可能な活動に向けた課題

お金・もの

農業機械の
維持が不安！

支援作業には、機械が必要です。修理や新たな機械購入ができなければ、活動の継続は困難となります。メンバーの高齢化により、機械に頼ることも多くなりました。

協同労働で有償の活動をしていますが、地域の困りごとに寄り添い、低料金の設定を維持しています。今は、会員の協力で、自前の機械を提供し合って、経費を抑えています。不安な状況が続いています。

地域団体によっては、毎年、補助金がつく活動がありますが、我々の活動には、そのような補助金(助成金)はありません。

ひと

「農」の相談、
体験受入れの
連携体制が
整っていない！

構成メンバーは、平均年齢70歳以上であり、若い人の力が必要です。地域の中で探したり、活動を知っていただく機会をつくったりしています。

市の協同労働担当にも継続的な協力をお願いしています(例:学生のアルバイト等の提案)。「農」に関心を持つ人が、気軽に相談できる窓口、具体的な情報提供やマッチングを行う体制が整っていません。市、JA、地域団体をはじめ関係機関との連携が不可欠です。

周知

協同労働を
知らない！

地域の農業状況は、アグリ アシストともが一番把握しています。

今後、伴学区LMOにおいて、協同労働団体として役割を担えればと思っています。

しかし、「協同労働」について知る住民が未だ少なく、私たちの取り組み方に、ご理解をいただけないと感じます。

市も、協同労働団体の実態を把握いただき、よりいっそう周知、広報にご尽力いただきたい。

今後、取り組もうと考えていること

地域まるごとで、「農」のあるライフスタイルを提案するまちづくり

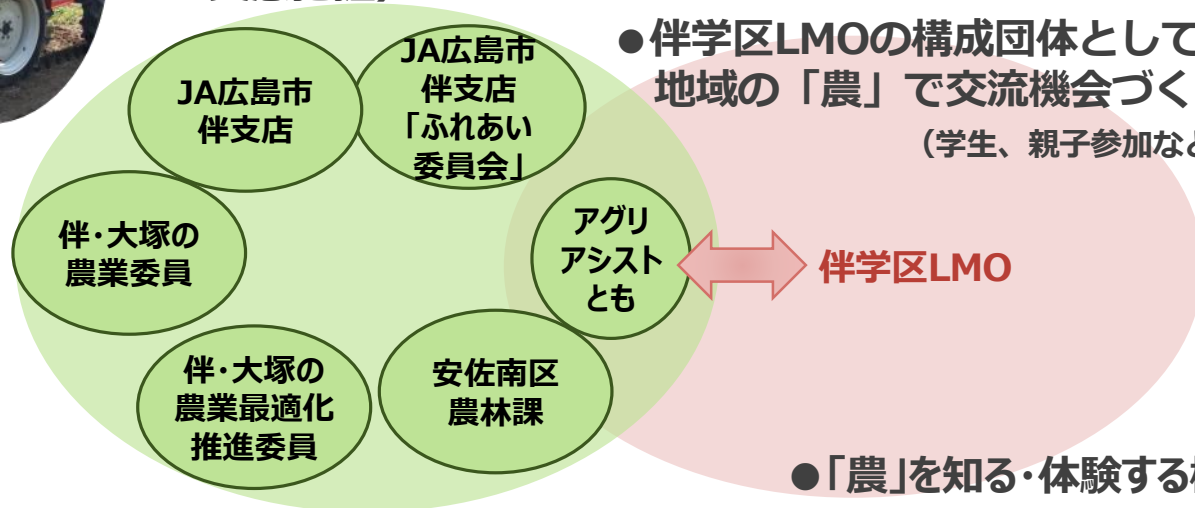


- 農業関係団体等との連携による農業の持続、環境保全の取組み（農業関連の困りごと支援、実態把握）

農への入り口を大きく開いて、「農」を楽しむことで、未来の担い手を育む。



- 伴学区LMOの構成団体として地域の「農」で交流機会づくり（学生、親子参加など）



- 地域資源（耕作放棄地・遊休地・自然環境等）を、地域で活用し、新たな農を地域で支える仕組みづくり

- 「農」を知る・体験する機会の提供

プランター・庭・畑で楽しむ

「野菜づくりカフェ」の継続開催

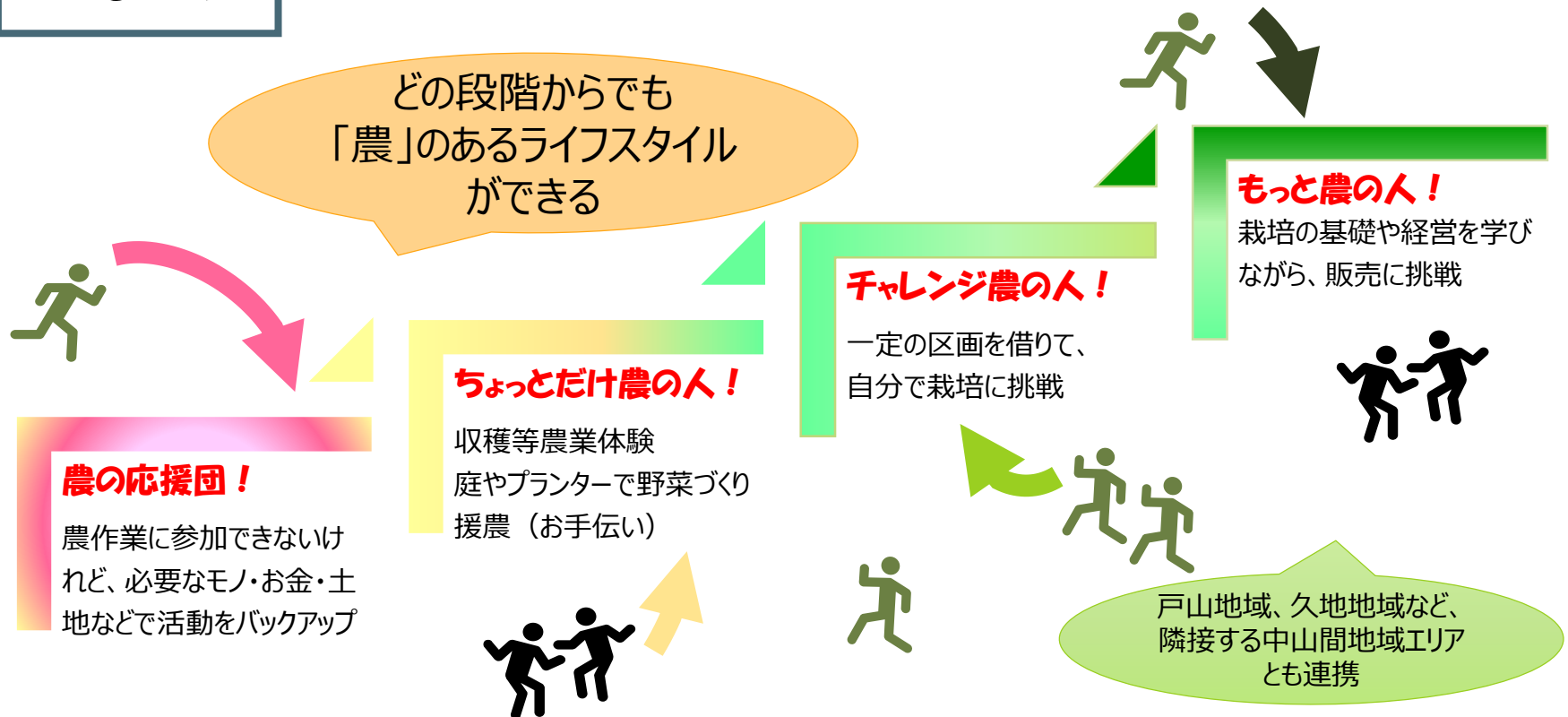
（R6・R7年度で、登録会員100名を目標）

→ より専門的な機会、実践は、JAや市が実施する研修へつなげる。

農地を 地域に つなごう

非農家世帯が多く、大学、商業、工業エリアのある西風新都。
地域の特色を活かし、農のあるライフスタイルを提案する地域に。

広島市、JA、地域諸団体等と連携し、
住民が、気軽に地域の農を知り、関わるができる機会や、相談窓口の拠点、
どの段階からでも「農」のあるライフスタイルができる仕組みづくりを。



消費者・生産者の区別ではなく、みんなで耕し、食す。「農」を楽しむ暮らしを提案

R6(2024)年 「第1回 野菜づくりカフェ（2月21日開催）」



▲講師 大畦裕之さん
(広島市農業委員会事務局長)



▲野菜づくりカフェの様子



▲苺ファーム「べりふる」（安佐南区吉山）
のいちごを試食。



▲JA広島市伴支店 岩井支店長



▲JA広島市伴支店 吉田営農指導員

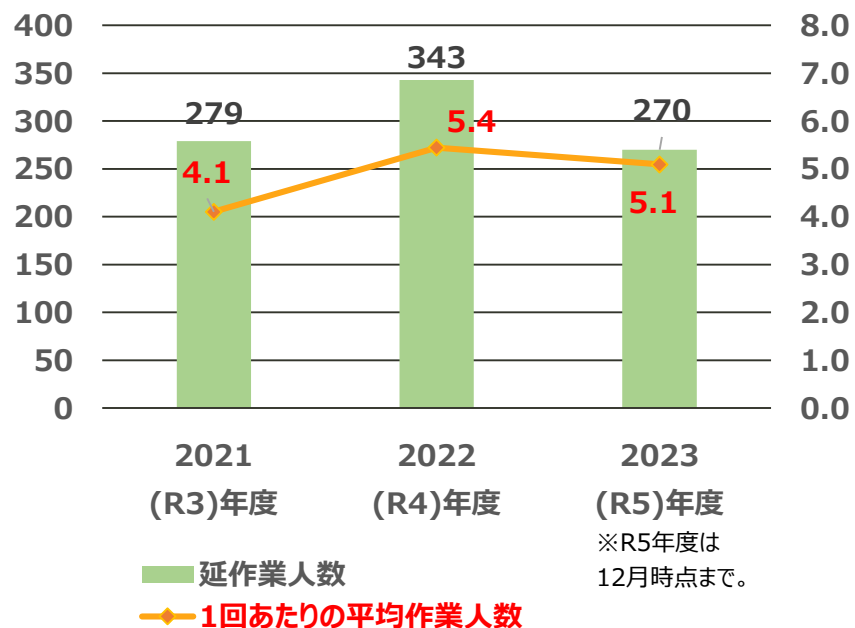


▲アグリアシストとも 西本代表

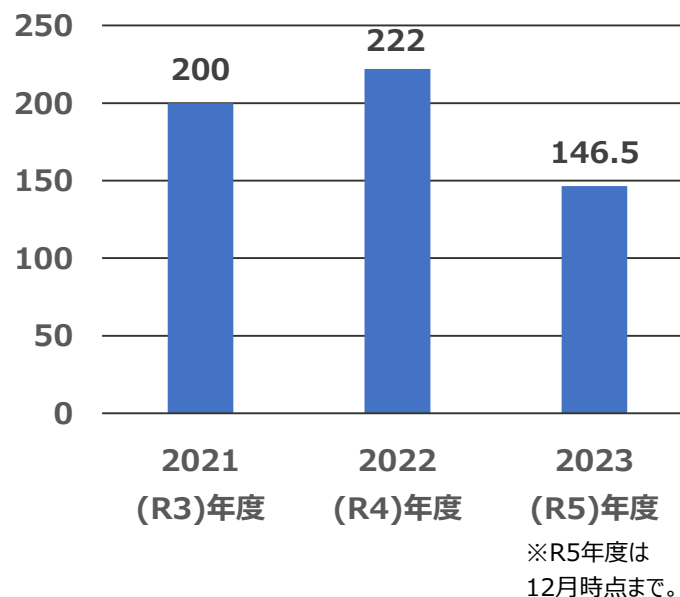


現在の取組み お困りごとや農業持続の支援、環境整備

■ 農業関連のお困りごと 作業人数（人）



■ 農業関連のお困りごと 作業時間（時間）



注：上記は、1件あたりにかかった作業時間の年間合計時間であり、
相談、見積り、請求等、作業の前後に必要な時間は含まれていない。
平均約4、5人で対応し、1件につき約3時間で対応を可能にしている。

活動を伝える

研修、活動紹介等への協力（～2022年抜粋）

対応日時	取材、研修・視察、講師依頼対応
2020年1月30日	静岡県協同組合間提携推進協議会視察研修会
2020年2月17日	NPO法人ワーカーズコープ視察
2020年9月10日	JA愛知中央会オンライン会議活動報告
2020年12月5日	西風新都マガジン取材
2020年12月18日	日本協同組合連携機構（JCA）報告書対応
2021年2月8日	公明新聞取材
2021年3月24日	NHK取材
2021年3月24日	愛知の協同組合間協同相談会研究会
2021年4月9日	NHK取材
2021年4月20日	ちゅぴコム取材
2021年4月28日	中國新聞取材
2021年4月28日	労協センター事業団山陰開発本部 労働者協同組合法成立記念学習会 活動報告登壇
2021年5月13日	月刊 潮 取材
2021年5月15日	労働者協同組合法キックオフ集会 in 徳島 実行委員会 活動報告登壇
2021年10月20日	京丹後市久美浜二区振興会研修会
2022年11月26日	特別養護老人ホーム和楽荘 ケアマネ会議活動紹介
2022年2月25日	森城ハウストライ 協同労働活動紹介
2022年4月27日	立憲民主党本部・議員団視察
2022年4月14日	広島市農業委員会取材
2022年4月26日	家の光協会取材
2022年5月27日	日本協同組合連携機構（JCA）取材

「農業」、「まちづくり」、
「協同労働」等のテーマで、取材や研
修会等への協力を行っている。

広島県外からの訪問にも応じている。

※ 広島市や広島市「協同労働」プラットフォーム主催の学習会での登壇等の協力も行う。

活動を伝える

研修、活動紹介等の様子

■ TV取材対応



■ TV取材対応



■ 議員団視察研修（福岡・石川・名古屋・静岡県内の市議含む）



■ 特別養護老人ホーム和楽荘 ケアマネ研修会



活動を伝える

設立当時の様子

全国農業新聞2019年6月7日
朝刊掲載

広島市
アグリアシストとも

困りごとはわしらに

都市部と農村化が進む広島市安芸区
の庄・大塚地区で、地域農業を担う農家
を継続していかなければならないと危機感
を持った人たちが「困りごとはわしらに」
を結成する「アグリアシストとも」(西本正
義代表)。耕作放棄地の草刈りなどを
請け負うが、目標は「10年後まで地
域に支えを続ける農業支援だ」。

列島前線

地域農業衰退への危機感 草刈りや農業機械の整備

同地区の面積は約5万平方メートルで、人口約1万人。田舎で人口が減少し、農業も高齢化が進んでいる。農家が少なくなり、耕作放棄地が増えている。市が委託する「困りごとはわしらに」が、耕作放棄地の草刈りや農業機械の整備を請け負っている。メンバーは、地元で農業を営んでいる人たちが中心で、地域農業の衰退への危機感を抱いている。

多様な職業経験者で構成 目指すは地域支援型農業

これまで30年ほどの経験もあり、農業機械の整備も手がける。メンバーは、多様な職業経験者で構成されている。メンバーの抱く「困りごとはわしらに」が、地域農業の衰退への危機感を抱いている。

10人ほどいる。事務局の
上田正徳さん(右)は
「農業の活用が、農業を
支える役割を担っている」
と話す。これからは、
もくろみが、地域農業を
支える役割を担っている。
農業(アグリ)と、サ
ポート(アシスト)が、
地域の農業を、支える
役割を担っている。地
域農業の衰退への危機
感を抱いている。耕作
放棄地の草刈りや、農
業機械の整備を、請
け負っている。メンバー
は、多様な職業経験者
で構成されている。地
域農業の衰退への危機
感を抱いている。

活動を伝える

中国新聞2019年3月11日朝刊
掲載「おくはたホテル公園清掃」

設立当時の様子

地域の農業の課題解決に向け、昨年夏に広島市安佐南区伴・大塚地区の兼業農家たちで結成した「アグリ アシストとも」が、地域の田園風景を守る活動を本格的に始めた。働く人が自ら出資し、経営にも参加する「協同労働」を支援する市のモデル事業の一つ。田畑の保全や耕作放棄地の有効活用などに取り組む。(石井雄一)

農業の困り事
伴・大塚の兼業農家ら
わしらが解決



公園のピオトープで土砂をかき出す「アグリ アシストとも」のメンバーたち

安佐南区「田園風景守りたい」

安佐南区伴西の「おくはたホテル公園」で8日、メンバーたち11人が、川から水を引いたピオトープの土砂をかき出しに精を出した。地元町内会などをつくるグループ「ホテルの里おくはた」の依頼を受けて作業。上垣内保之さん(72)は「活動を重ねて景観をしっかりと守っていきたい」と汗を拭いた。

「アグリ アシストとも」のメンバーは14人で、全員が60歳以上。住宅地の周辺に田園風景が残る地区では近年、担い手の高齢化が進む。遊休地や耕作放棄地も増えており「何とかしたい」と立ち上がった。

今年1月には、地域課題の解決に高齢者の力を生かす狙いで市が支援する「協同労働」のモデル事業に採択された。地域住民たちからの依頼を受けて、田畑の草刈りや代かき、植木の剪定、作物の植え付けなどを有料で請け負う。遊休地を活用し、メンバーの指導で、興味のある人が共同で作物を育てる仕組みづくりも目指す。

西本正憲代表(70)は「地域住民に寄り添い、メンバーも楽しみながら活動したい」と意気込んでいる。